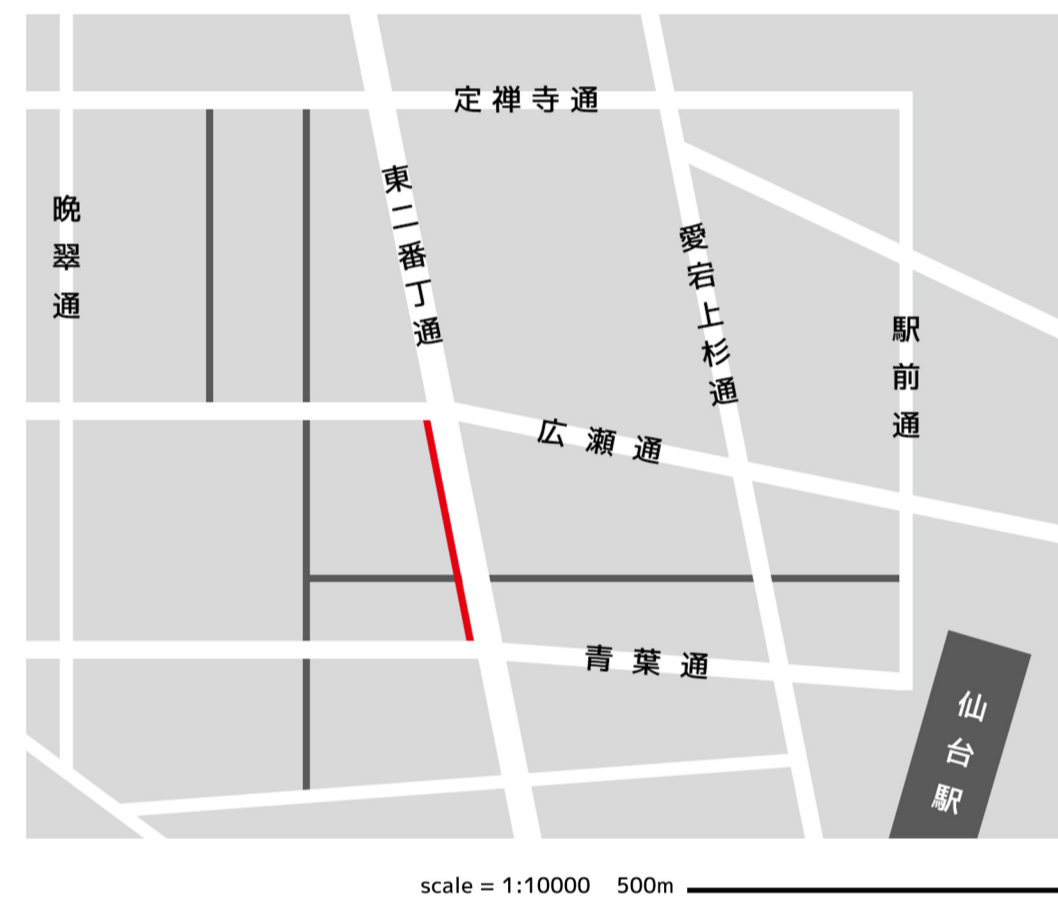


# 通りも歩けば花ひらく —東二番丁出ッ木—

デッキ

ただ通り過ぎるだけの大通りは痩せている。立ち止まってみれば、日当たりの良い魅力的な場所ではないか。広い歩道に都市の花を咲かせよう。



## ▶大通りは日向だ。

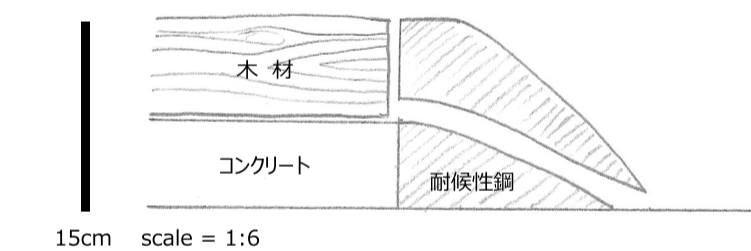
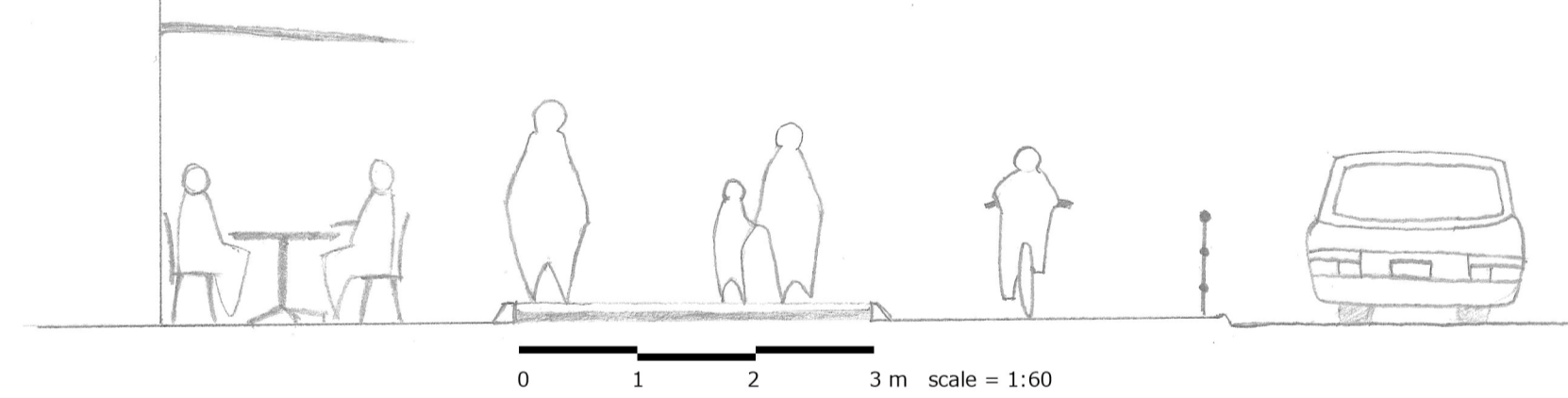
都市の中心部を貫く大通りは元来、魅力的な空間である。空が大きく開けていて開放感がある。整然と高層ビルが建ち並び、多くの車が行き交う都会らしい景観である。それだけでなく、街路樹が四季を感じさせる。歩道も広くて歩きやすい。単なる交通需要の充足だけでない豊かな環境を持っている。

## ▶大通は渴いている。

しかし現状の大通りは、歩行者の空間になっているとはいえない。通りに人々の活気が見られない。買い物をする人々はガラスの箱に覆われ、通りに並ぶ建物のファザードは目線の高さから巨大で単調である。自転車との分離も不十分で危険を感じる。公開空地などのオープンスペースは驚くほど利用者がいないか、タバコの吸い殻にあふれている。

## ▶大通を潤そう。

大都市における既存の「集いのための空間」は、現状でも一定の機能を果たしている。イベントに賑わう都市公園。連日人々の行き交うアーケード。しかし都市の魅力はそれだけではないはずだ。まだ出し切れていない、大通りがもつ都心における「集い」の空間としての潜在能力を、土木施設の工夫によって引き出したい。



## 対象地：仙台市青葉区一番町 東二番丁通 青葉通交差点～広瀬通交差点 西側歩道

東二番丁通りは、仙台の都心を南北に貫く幅員 50m の大通りである。歩道も各 9m と広く、歩行者だけでなく自転車も多く交錯している。

### ▶自転車と歩行者との折り合い

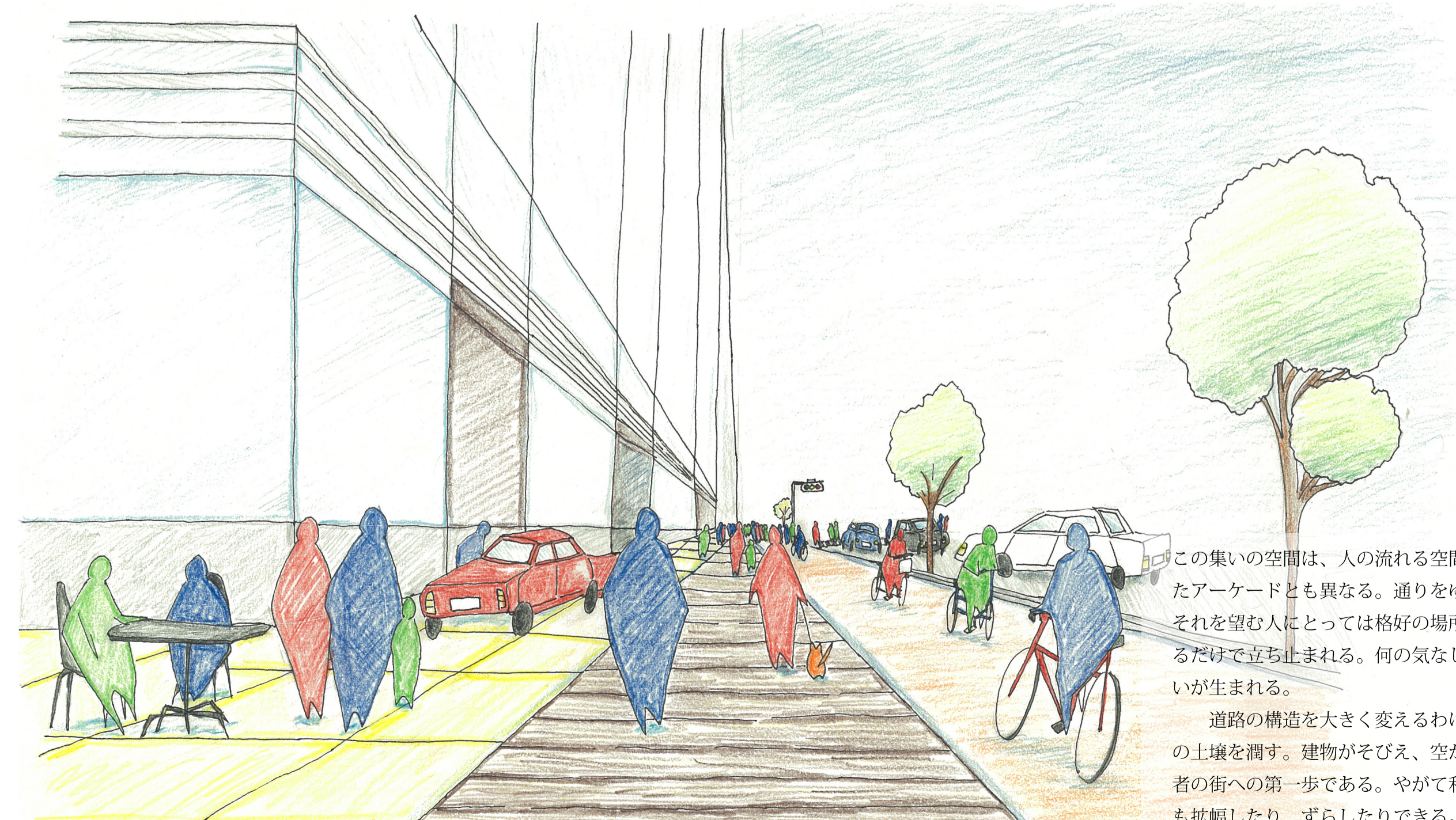
バス停前では自転車降車の看板が立てられているが、実際には降りずに通過する人が多い。ほかにも地下歩道の出入口付近に放置自転車が散見されるなど、自転車との干渉が問題である。

### ▶公共空間と私有地

道沿いはボリュームの大きな建築が建ち並んでいる。特にアーケード出口周辺は商業施設が多いが、民間と公共の土地はきっぱりと分かれ、商業活動は敷地いっぱいのビル内部に押し込まれている。いくつかの私有地にはオープンスペースがあるが、自由に入れる空間と認知されずほとんど無人であったり、樹木とビルで薄暗く吸い殻が散乱していたりと、活用されているとは言いがたい。

### ▶アーケードの前

アーケードに続く横断歩道は仙台で最も歩行者の多いところの一つで、人々が大量に溜まっては流れ出る。周囲の路上は政治活動か広告頒布など、見られる活動は一方的なものが多い。横断歩道から流れ出る歩行者は大抵、表情を固め知らぬ顔で通り過ぎている。



この集いの空間は、人の流れる空間に隣接している。都市から滞留空間を切り出した公園とも異なるし、滞留と流れの混合したアーケードとも異なる。通りをゆく人を眺める楽しみを生むし、逆にそこでの活動が人々の目線を集めることもあるだろう。それを望む人にとっては格好の場所となるし、道沿いの商業にも便益となる。また、通りの流れに乗ってきた人は、一歩降りるだけで立ち止まれる。何の気なしに、ほんのわずかな時間を費やす微小な滴が大通の歩道を満たす、これまでとは異なる集いが生まれる。

道路の構造を大きく変えるわけではない。ただ少し段差をつけるだけである。しかしそれが生む空間は、都市活動のための土壌を潤す。建物がそびえ、空が高く、季節を感じる大通りに、人々の活動が開花する喜びを気づかせる。この提案は歩行者の街への第一歩である。やがて利用者がもっと歩道を欲し、車線を減らすこともあるかもしれない。それにあわせてデッキも拡幅したり、ずらしたりできる。この提案はこれからの都市のプロセスとともに歩みを進める。



## 提案

### 東二番丁 出ッ木 [ Higashi-Nibancho Deck ]

幅員 6-9m の歩道中央部に、高さ 15cm、幅 2-3m のデッキを全長にわたって敷き（上の平面図）、歩行者通行エリアとする。このデッキより建物側は滞留エリア、車道側は自転車エリアまたはバス停とする。既存の歩道を 3 つに分節し、自転車走行・歩行・滞留の各空間を確立するものである。

### ▶歩行者のための歩道

鉄道を思わせる連続的なデッキは木製で、歩行者に快適な歩き心地を提供する。自転車が走行すると揺れが大きく、減速あるいは降車を促す。雨天時は水たまりのできない歩道となり、歩道の利便性が高まる。

### ▶無意識の公共・公共の秩序

少しだけ地面から出っばる木製のデッキは圧迫感を生まず、しかし昇り降りは無意識的に避けられ、歩行者と自転車の干渉を防ぐ。また公的空間に連続した修景を施すことで、地区の景観に秩序を与える。東二番丁通りを象徴する新たなキャラクターは、杜の都としての木のあり方に一石を投じる。

### ▶大通に集う

滞留エリアは、隣接する商業施設が活動を路上へ展開できるよう、規制緩和を行う。家具屋と喫茶店がコラボしたオープンカフェや、立体駐車場を活用したウォークライミングなど、各ビルごとの多様な活動が歩道へ展開され、空間を満たすことを期待する。大通りの歩道に滞留の目的が生まれ、集いの場となる。